令和3年度 第2回
ときがわ町総合振興計画審議会 議事要旨

日 時：令和3年12月16日（木）午後2時00分～

場 所：就業改善センター 3階 集会室

正副会長：真野会長、岡野副会長

出席者：杉田委員、小島（利）委員、田中委員、野原委員、山下委員、杉田委員、岡本委員、星野委員、
荻久保委員、菊地委員、小島（和）委員、安藤委員、小峰委員

<配布資料>

- ・資料1 ときがわ町総合振興計画審議会条例
- ・資料2 委員名簿

事務局：それでは、資料の確認をさせていただきます。事前にお配りした基本計画の計画案と本日の次第、またパブリックコメントの原稿案を配布させていただいております。計画案を本日お持ちになっていない方はいらっしゃいますでしょうか。大丈夫でしょうか。それでは早速「議事」に入らせていただきます。会議の進行をよろしく願いいたします。

会 長：それでは、今日は事前にお送りいただいた計画案が議題となりますのでよろしく願いいたします。それでは議事の1、基本計画案について、まずご説明をお願いいたします。

（事務局：後期基本計画（案）について説明）

会 長：それでは、P41までのところでご意見、ご質問等ございましたらお願いします。

委 員：ポイントだけ意見を述べさせていただきます。基本的に今までやっていたものの引き続きで、新しいものがない。それとメリハリをつけるとか、ソフトな面を重点的に考えると書いてありますが、何がメリハリなのか、どういうソフトなのかが見えない。というか示されていない。それともう一つは、特殊出生率について数字を上げると言っていますが、あれは基礎がどうなるかであって、数字は上がっても実数は増えないですね。だからそのところが分かりづらくしてしまっているの、今日具体的にぜひお願いしたいと思ったのは、何を目標にするのか、何を目標にしてどうなるのかということを知りやすく見えやすい形をぜひ示していただきたいというのが今日の一番大きなポイントです。具体的には、コーホート推計表をご存じだと思いますが、あれはすごく分かりやすいですね。地域でどのくらいの人になるかというのが数字で分かるわけですから、数字で分かりやすい、見えやすい形をぜひ示していただき

い。計画案を見ましたが、今までの継続であって新しいものが見えない。あとやっていることが中途半端というのが印象です。以上です。

会 長：事務局からいかがでしょうか。

事務局：只今のご意見につきましては、本日のご意見の中で計画を直していくということで、反映させていただければと思いますので、よろしくお願いします。

委 員：あともう一点、政府がこども家庭庁というのを決めました。23年度、いわゆる再来年度から実施するというのでその辺に触れても良いのではと思うのですが、いかがでしょうか？入れた方が良いのではないかと提案です。

事務局：先日出てきた話なので、まだ内容がどういうものか検証できていないため、そこに対して触れるのは時期尚早かなと思っています。但し言葉のイメージとしては、子育て支援には相当な力を入れてきたし、これからも力を入れていく予定でございます。そこに対して新しい事業をともしも考えてはおりますが、やはりそこは変わりなく今後もやっていくという意味では、前期から後期の基本計画に移るからといって、変わるものではないと思っております。以上です。

委 員：それは認識が違ふと思います。国全体がどういう風にやろうかという分析の上で、新しいものを作ろうというのが国の方針です。我々はそれを受けて、ときがわ町が今まで進めてきたものを更にそういう方向に向かってどうするかと咀嚼したり、解釈したりするのが方向性だと私は思います。そういう計画にぜひ踏み込んだ中で、ときがわ町はどうするか検討すべきだと私は思います。

会 長：子どもの話は基本施策の1と2に関わってくるので、そこでももう一回議論できるかなと思います。

委 員：P40はかなりの部分が人口の問題です。かなりここは重要なところで、皆さんの認識がどう向かうのかということだと思います。今後については個別の政策はどうでしょうか、誰が担当するか、どういう数字を持つかだと私は思いました。ここは重要なところだと思っています。

会 長：いかがでしょうか。

事務局：人口減少の問題、少子化が一番の問題だと思っております。ただそこにつきまして、合計特殊出生率をときがわ町が1上がったことに対して、日本の人口としてどれだけ影響があるのかという問題になってくると思います。どちらかと言えば、何も影響がないようなところだと思います。ときがわ町1つが、合計特殊出生率を上げたからと言って、全然意味のないものだと思います。ときがわ町として考えた時には意味があるのかもしれませんが、ときがわ町だけに人が集まって、周りが空洞化してしまうという現象があります。何が問題なのかということをはっきりと考えていかなければいけないと思っております。皆さんご存じだと思いますが、合

計特殊出生率が 2.07 になったからといって、人口が下げ止まりになるのかといったらそんなことは全くない話であります。2.07 になって、そこからその時に生まれた子どもが、子どもを産めるようになる年までは人口は下がり続けます。2.07 から 20 年、25 年は最低でも人口は減るわけです。ですから、今すぐでも 25 年かかるわけなので、そこをどうしていくかは日本全国の問題ですから。ときがわ町だけの問題ではないです。そういうことから、ときがわ町として唯一できることというのは、分母を増やしていくということは、ときがわ町だけを考えてときには有効であると思います。ただそれは他の自治体から分母を取り合っているだけになってしまいますので、それで良いのかというところもあります。ときがわ町だけを考えれば、そこは重要になってくるという認識でいる必要があると思います。

委員：全体の意味合いを見て、皆さんの意見をもう少し話さないといけないと思います。ようするに若い人が転出する傾向がある。その歯止めをするのも大事で、それには生業も含めて、そこで生活圏を与えて、若い人が住む施策を盛り込むことも大事だと思います。皆さんの意見をもっと言っていただくことが大事だと思います。

委員：基本的に今は P40、41 について話しましょうということですよ。P40 に一つのまとめとして人口問題について書かれているのですが、人口構造の問題を解決すると全部解決するような問題です。そうすると次のセッションで出てくる基本施策をこの問題を解決する方向で取り上げていくのはどうでしょうか？全ては人口構造問題に関係しているように思います。

事務局：只今のお話につきましては、本当にそう思いますし、その中で P37 に自然増減と社会増減の影響度を検証したものがあります。この中で自然増減と社会増減、どちらの影響度が大きいかと言いますと、社会増減の影響度の方が大きいのでこちらに力を入れていきましょうという話がこの中に書いてあります。P42 以降の基本構想の中で取り組んでいく内容になっています。

会長：逆に言うと P40 の目指すべき将来の方向性の場所が悪いかもしれないですね。ここにこれがあるって、また次に人口展望、それから夢物語が書いてある。その辺が皆さん混乱してしまうところだと思います。

委員：P40 の黄色の部分にまとめてあることは、全くその通りだと思います。こういうことをやっていくべきだと。これをするための人材の手配と資金の手配ができなければならないわけですね。いくら書いてあっても何もならない。それをどのように手配していくか。執行部と監視機能である議員、議会で討議していく。ただ人材の担保と資金の担保は絶対にしないと、いくら書いていても何もできないので、町民としてはそれをやっていただきたいです。

会長：他にご意見、ご質問ありますか？現状は間違いなくこの通りだと思います。

委員：人口の関係ですが、ときがわ町の西と東で人口割合が違うと思いますが、どこで減少したか増えたかという相対関係は、こちらでほとんど謳っていないと思いますが、その辺を見極めた上で、地域の色々な整備なり、何なりもできますし、学校関係も減らしていくなどの問題にも波

及していくと思います。まずどこが減って、どこが増えてというものをある程度見極めた方が
良いのではないかなと思いました。

会 長：事務局、いかがでしょうか？

事務局：確かに今後色々な施策を打っていく上では、どこに重点的に資金や人材を投入するかというこ
とに対しては、今おっしゃったような人口比率も重要になってくると思います。そういう話の
中では良くコンパクトシティという話も出ているわけですが、一カ所に集めてしまえば、経費
もかからず、行政の事業がやっていけるということになると思いますが、全部が100%そこに
集まっていればそういうことも可能ですが、どうしてもときがわ町の山間部地域に実際に住ん
でいる方もいます。こういう方達を切り捨てるわけにはいかないのです、中々舵取りが難しいと
ころであります。実際に統計上では、東側の玉川地域の方が減少率は少ない。やはり西側の山
間地域の方が減っていった率が大きいです。実際に人口も少なくなっています。ただそこ
で人がいなくなることによって、どういうことが起きるのかというと、色々な影響が東側地域
にも出てくるため、全く人が山間部からいなくなって良いのかということもあると思います。
有害鳥獣の関係や災害もそうですし、色々なことが起こってくると思います。そういうことを
考えると全くコンパクトシティというわけにはいかないと思います。その辺は、答えになっ
ていないかもしれませんが、人口が多い少ないだけでやることを決めていくわけにはいかないか
と思います。

会 長：今の意見というのは、やることを変えるのではなく、西と東のデータを分けて出した方が良い
のではないかというご意見だと思います。その可能性はありますか？全部でなくとも。

委 員：その方が分かりやすいのではないかと思います。

事務局：大きな括り、旧村単位では表現することができるかと思います。

(事務局：P42 基本構想以降について説明)

会 長：P45の重点プロジェクト1から4は、現行からの継続で変更しない認識ですか？

事務局：重点プロジェクトにつきましては、前期と内容的に似ているプロジェクトもありますが、全
てが前期から踏襲された訳ではなく、総合戦略と併せてプロジェクトを設定する中で、今回新
たにお示ししている状況です。

会 長：P46～47は見開きの方が見やすいのでは？

事務局：申し訳ございません。ページの調整で上手く見開きになるよういたします。

副会長：後期から入りまして、今回2回目の会議出席となります。計画を読ませていただいて、何点か

先に進んだ計画が作られたと感じております。それがどこにあるかという、一点目はP50について。先ほどこの指標で良いかという意見がありましたが、指標については今すぐは答えられません。前期の計画では同じような事が出ていたのですが、一步前進しまして、例えばP37が前期の最初に出てきます。目標指標は上に出っていますが、ここは現状と目標値だけです。今回は右側に担当課を入れていただきました。これははっきりしますよね。ある程度、担当課が責任をもって進めてほしいと明示したのは、とても良い事だなと感じています。二つ目は、この間もテレビで盛んに取り上げられているSDGsです。これをいち早く取り上げております。当てはまっているかはわかりませんが、姿勢は良いなと感じています。新しい良い計画を作っていたのだなと感じていました。但し何点か問題点があるかと思えます。一点目は誤字脱字がありました。それはここでは取り上げず、昨日企画財政課の方にお話をさせていただきました。二点目は施策の中で、「検討します」という言葉が何か所か出てきます。例えばP61、主な取り組みの中の上から8行目。新しい観光事業へ対応するための施策を検討します。最後の文言が検討しますになっているところが何ヶ所か出てきます。たまたま今年は男女参画の審議員になり、前回の会議でもお話をさせていただいたのですが、検討しますというのは、国会中継でも色々出てきますが、ここに書いたということは、それ自体やっぺいこうと、ある意味検討した結果ですよね。ですから、検討しますという言葉を使うのではなく、もう一步前へ進む、それを進めていきますとか、今までやっているのであれば、拡充していきますなど、前向きな表現でまとめる方がより良いかなと思えます。ここでお話をさせていただいたのは、重点プロジェクトについて。P45のこれが最初分からなかった。主な取り組みの中に所々重点プロジェクト1とか2とか3が出てくる。これは何なのかなと。先ほど事務局の方から話が出ましたし、この間の委嘱書の中にもありましたが、この計画を立てると同時に、まち・ひと・しごと創生総合計画というものを一緒にして、新しくまとめて作っていくということですね。私はできるだけ、色々なものをあちこちから出して来るよりも、ある意味大きなものをひとつくりにした方が良いと思うので、ここにまとめたのは賛成です。その中で重点プロジェクトが出てきたとしたら、施策の中に出てくるこの重点プロジェクトを最初の所にもって来る。例えばP51に、重点プロジェクト1と出てくる。これは保育サービス提供事業と一番上に出てきます。二番目に子育て世帯への支給、助成事業というので、ここにプロジェクト1が出てきます。後からも出てきますが、だとしたらこの重点プロジェクト1を特にやっぺいいくのだということであれば、これを一番上に表記する。なおかつそこを目立たせて、重点プロジェクト1、2、3、4に関しては、施策の中の上位項目に挙げて、そこから書いていき、その下に必要なものを書いていく。表記を変えた方が分かりやすいかなと思えますが、いかがでしょうか。

会 長：非常に具体的なお意見ありがとうございました。いかがでしょうか。

事務局：貴重なご意見ありがとうございました。今ご指摘いただいた「検討します」の文言ですが、確かにおっしゃる通り、この計画に載せるということは、施策について進めていく意思の表れだと思いますので、変更していきたいと思えます。また、重点プロジェクトの関係ですが、確かにおっしゃる通り、複数の取り組みがある中で、表記が分かりにくいと思えます。特に重点プロジェクトにつきましては、これから町としても力を入れていくこととなりますので、取り組みの表記の順番は変えていく方向で進めます。よろしくお願ひします。

会 長：私から重点プロジェクトの提案ですが、P45の3番の産業成長プログラムについて。ときがわ町の自然を生かしと書いてありますが、ときがわ町ならではの考えると、山と川と里というのがあると思います。それをしっかり言葉として入れた方が良いかもしれません。全体的に全部農林業のみで、水産業をあえて省いているか、忘れられたのか分かりませんが、武蔵漁業というのがきちんとときがわ町にもありますし、キャンプ場でもマス釣り大会もやっていますから、水産業という言葉が適切かは分かりませんが、入れておいた方が良いと思います。昔マス釣り場もあって、今はなくなっていますけれど、何か水産を忘れないために、水・川を生かした産業をここに入れておいた方が、それをやろうとしている人に何か施策はできないか、補助は出せないか、そういうことをやろうとしている人がしやすいと思うので。ご検討いただければと思います。

事務局：まさしくおっしゃる通りです。ときがわ町の名前の由来もありますので、検討したいと思います。漠然と自然というものを使ってしまっている中で意識をさせていただいたということだと思います。

会 長：里を入れるのが大事。山はかなり書いてあるが、川はなかったし、里の感じがあまり出てきていなかった。ぜひ検討をお願いします。他に何かありますでしょうか。これはまだ基本施策1までの事で良いですか。

事務局：はい、基本施策の1までです。

委 員：重点プロジェクトですが、目指しますという言葉だけあり、具体的な How がない。どうやって、どういう方法を取って目指すのかが入れられるのであれば、入れた方が良いと思います。

会 長：プロジェクトという名前を付けているからには、重点目標ですよ。

事務局：分かりました。

会 長：他にありますか。

委 員：P55、56ですが、食で選ばれる町づくりを目指すとかかなり言われている中で、右の主な取り組みの一番下、食育の推進事業が重点プロジェクト1と書いてあるのですが、目標指標の点では、特に何も数字等項目がありません。プロジェクト1ならば、何かしら目標があっても良いのかなと思うのですが、あえて入れなかったのは何かありますか？

会 長：他のところでも出てくるかもしれませんがね。重点プロジェクトを選んだからには、指標が1個はあった方が良いでしょう。

委 員：他のところで給食の地産地消等、一応あるにはあるのですが。この部分で何もなくて良いも

のなのか疑問に思いました。

会 長：いかがでしょうか？

事務局：確におっしゃる通りだと思います。最初は幼児教育の充実がP55 からあります。P57 から学校教育の充実がございまして。学校教育の充実の指標の一番下に、学校給食における地場産物を使用する割合、金額ベースのような指標を今回入れさせていただいています。最初の案としては、保育園での給食における地場産物を使った物に関する指標を入れてありましたが、毎日の給食に地場産物を使うという目標ですと、既に100%近くいっているそうです。学校教育の場合は金額ベースで算出できるという回答をもらっていますが、保育園では中々金額ベースでの算出は難しいです。使用している地場産物の重さや量でも中々難しいということで、何か良い指標を担当課にも検討してもらっているが、中々良いものがないというのが回答でした。ただ今おっしゃるように食育推進プロジェクトとして入れていきますので、幼児教育の中でも何か入れられたら良いと思いますので、もう一度担当課と調整して、何とか入れたいなと思っているところです。

会 長：アンケートを取らなければならないかもしれませんが、朝ごはんを食べている子どもの割合とか。何かやりようはあるかなと思います。

事務局：そうですね。最初に示したのが給食というのが頭にあったので、中々そういう意見が担当課から出なかったかもしれませんが、今会長がおっしゃったように視点を変えれば、何か指標として作れるものがあるかもしれませんので、また話を持っていきたいと思っています。

会 長：我々も気づかないかもしれませんが、重点プロジェクトがあるのに指標項目がないというのが他にもないか事務局でも確認をお願いします。他にございますか。そうしましたら、基本政策の2をお願いします。

事務局：基本政策2、「町の魅力と活力を高める、活気あふれる町づくり」という項目になっております。P60～72までがそちらの取り組みになっております。施策の中に③④の中に1、2、3という文章構造になっています。基本政策と同じようにここも目標と目標指標、及び指標の内容につきまして、気になる点、ご指摘がありましたら、ご意見いただければと思います。よろしくお願いします。

会 長：ありがとうございます。黄色のイメージのところですね。ご質問、ご意見等ございましたら、お願いします。

委 員：P67ですが、新規就農者が令和3年度2名とありますが、実際はもっといるのではないかと思います。私の把握している人数は4名程ですが。

事務局：こちらの基準値は担当課に問合せをして回答をもらったものを入れておりますが、もう一度産

業観光課に確認したいと思います。

会 長：数字は間違いがあれば、後日しっかり修正をお願いします。何かございましたら、お願いします。

では私から。先ほどお話ししました、自然環境のところ、やはり山・川・里は入れた方が良くないかなと思うところがいくつかありました。あとでお渡しします。P64のところ、生物多様性が今重要になってきて、指標に入れるのは中々難しいと思いますが、少なくとも目標と目標指標には、生物多様性の概念を入れた方が良くないかなと思いました。P66の農林業の割合についても、先程と同様に水産を入れておいた方が後々使いやすいかと思います。また、地元の質の良い野菜という言い方が良いのか、ずばり有機農業という言葉を使った方が良いのか、色々ときがわ町のご事情もあるかと思いますが、ときがわ町に外部から買い物に来てくれる人の中には割と有機農産物目当ての人たくさんいますし、地元の農家の人が有機農産物だと承認を取らなければならないので手間ですが、地元の人が、自分たちが食べるために無農薬で作ったものの残ったものを買っていくということで、ほぼ無農薬を買っているイメージに近いので、有機農業とかを入れるべきではないかと思います。埼玉県では小川町がしっかりうたっていますが、ときがわ町は本来匹敵するくらい有機農業のさかんな場所かなと思っていますので、色々な事情はあるかと思いますが、一意見として思いました。生物多様性を入れるのは簡単だと思いますが、有機農業は色々と考えていただく必要があるかなと思います。

事務局：担当課とも調整して、できるだけ入れられるようにしたいと思いますので、よろしくお願いします。

会 長：玉川のふれあいプラザは町が運営していますが、一角は有機農業です。野菜の1/4くらいが有機農業で売っていますから、これは言った方が良くないかと思います。これからの時代としては必要だと思います。

事務局：正式な有機農業となると難しいと思いますが、小川町に聞きますと、小川町基準による有機の認証というものがあるようです。

会 長：良いと思います。ときがわ町でもときがわ町認証とすれば良いと思います。大手の回転ずしが、世界基準のオーガニックはまち、日本では基準がないので逆に世界の基準で取って、それを店に出すというのをやっている。オーガニックや有機は、これから都会から人を呼ぶ上ではやった方が良くないかと思います。いかがでしょうか？よろしいでしょうか。何かまた思い出しましたら、最後に。次は緑の基本政策3についてお願いします。

事務局：P73からの基本政策3でございませう。豊かな自然と共生し、快適に暮らせる町づくりということでございませう。こちらも基本施策⑤、基本施策⑥という分類で、それぞれの基本施策に各4つの施策の記述をして構成されているものでございませう。こちらにつきましても、気になる点、ご指摘いただければと思ひますので、よろしくお願ひします。P88までが基本施策3になります。

委員：まず目標値ですが、例えばP74の自主防災、消防団は、目標としては100%求めなければならないと思いますが、中々大変なところだと思うので、具体的にお話があったように、どうするかという部分が伴わないと数字倒れになってしまうと一つ指摘をさせていただきます。また、町道の問題がありますが、白線は非常に消えやすいと別件では提案していますが、町の住民側からみても消えているとわかると思います。白線が消えているとか、薄くなっているとか、その点は生活に密着している部分だと思うので。そこはぜひ指標や目標に挙げていただきたらと思います。あとP76の廃棄物の再資源化についてかなり極端な数字が出ています。目標としては正しいと思いますが、こんなに上がるのかなと思いました。27が78ですからね。あとその下の太陽光ですが、流れとして極めて大切ですが、その太陽光だけの問題ではなく例えば、EVの対応はどうするのか、設置はどうするのか、今後の施策に反映させなければならないと思っています。その点いくつか感じました。

会長：ありがとうございます。複数ありましたが、いかがでしょうか？

事務局：今ご指摘いただいた目標指標の追加等につきましては、先程の幼児教育と同様に担当課と調整させていただきたいと思います。廃棄物の再資源化率についてご指摘いただきました。これにつきましては、数字をもらったときに私も少し気になった点がありましたので、担当課に確認しました所、可燃ごみの処理方法が今まで小川地区衛生組合でやっておりました。来年度以降、オリックスで可燃ごみの処理をするということでございます。その処理の方法によって、メタン発酵バイオガスとなり発電するというような形になると担当課から聞きました。それによって、今までは全部廃棄、焼却廃棄という形をとっていたのが、エネルギーという形になるということで、それによって高い目標数値が可能ではないかということでございます。

会長：今ちょうどP76の太陽光発電に関しては、西日本での土石流や小川町、滑川町、日高市、飯能市あたりで、森を削って太陽光を作るのはいかがなものかという流れだと思いますよね。最初の頃はこういう感じに増やすのは良いという世論だったと思いますが、最近は森を削って作るなんてそんなことをやっては恥ずかしいとなってしまいます。工場の屋根に作るとか役場の屋根に作るとかであれば、誰もが納得してくれると思いますが、少し考えた方がよいかなと思いました。

委員：今の会長の発言ですが、今ときがわ町では太陽光について条例を定めるように進めておられて、3月には条例ができると思います。全体として条例成立されると思います。一番の問題は鳩山町は里山が多く、そこを重点的にやられている。里山を保護する施策も必要かなと思います。条例によって厳しくして、一歩前進するのは良い事だと思います。

会長：手放しに目標を増やすのは違う方向になってしまうかなと思います。

事務局：太陽光発電システムにつきましては、説明が足りないと思いますが、実際には家庭の屋根に設置している件数で出ていると思います。足すか、指標を変えるかということで対応したいと思います。

会 長：それとここで上水道に関する言及はあったかと思いますが、下水道についてはありましたか。合併浄化槽の推進はどこかにありますか？

委 員：P64にあります。

会 長：すみません、P64にありました。ありがとうございました。皆さまから何かありますか。

委 員：P80の各種相談窓口の充実ということで、指標が周知啓発の回数ということですが、どういう形で周知の回数を言っていますか。コロナ禍で複雑な相談がとても多い中で、相談できる場所はすごく大切なので、もう少し充実させるべきです。少しぎっくりしているので、掲げるのが難しい目標だと思いますが、何かもう少しできたらなと思いました。

事務局：これにつきましても、もう一度担当の者と話をして、もう少し分かりやすい指標ができればと思います。

委 員：P85の道路の問題について、県の資料だとときがわ町の舗装率が38.3%。小道の舗装率が低いです。61位です。全体的にどの程度まで進められるか。生活道路を含めても観光振興のためにも、数字を上げていく努力は必要ではないかと思います。

事務局：今すぐには思い出せないのですが、ときがわ町で道路舗装率が低いということについては、どうしても隅々までいっている小道に対して、舗装していない分、舗装率が低くなってしまっていると聞いたことがあります。少しでも舗装されれば生活利便が向上するというのは承知しておりますので、そここの指標を入れられるかどうかというのは担当課と検討していきたいと思います。

委 員：心配なのは、道路問題で騒動になった場合、裁判沙汰になる可能性があります。県道、国道含めて、そういうことも考えながらやる必要があると思います。

会 長：ありがとうございます。それではひとまず、次の基本政策4に移りたいと思います。

事務局：P89からの基本政策4、「あらゆる世代が安心して生き生きと暮らせる町づくり」という項目でございます。こちらにつきましては、P106までとなっております、基本施策の⑦から⑩までの4つの施策となっております。その細分の施策が全部で9つに分類された基本政策の記述となっております。こちらにつきましても今まで同様、ご意見を頂戴できればと思います。よろしく申し上げます。

委 員：P91の年間一人当たりの国保医療費は、ときがわ町は残念ながら県で2番目に高い。それを36万というところと相当下げることになるので、大きなチャレンジです。下がるのは基本的に良いことですが、事前に課長に聞いたところ、この数字は間違いだと言っていました。いかがですか？

事務局：こちらにつきましては、担当課の課長に数字が合っているかどうか確認しました。基準値、目標値ともに 42 万 7 千にしたいという回答を受けています。基準となる金額を減らすのも中々難しいだろうということで、現状維持で進められれば良いという回答でした。以上です。

委員：それもまた逆に望ましくない。少なくとも前進のための努力をするというのがないのは残念という感想。相対的な人口は高齢化に進む、数としては減ると認識はしているつもりですが、やはり現状を守るのがやっとなんかというのは目標としてはいかがなものかと思いますが、どうでしょうか。

事務局：目標指標の数値につきましては、再度全ての課に本当に間違いがないか確認をお願いしているところです。この部分につきましては、一旦は現状維持という回答をいただいておりますが、確かに目標の指標が現状維持というのは中々厳しいと思いますので、その辺も話をして、最終回答をもらうようにしたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

委員：確認の意味で聞いてもよろしいですか。今の年間一人当たりの国保医療費（1000 円）と書いてありますが、一人当たり年間で 42 万 7 千円、国民健康保険から支出されていると捉えて良いですか。

事務局：はい、そうです。

会長：一人当たりの一人というのは全員ですか。使った人ですか。

事務局：国民健康保険の加入者ですよね。

会長：子どもは入りますか。

委員：国保対象のお子さんも含まれます。協会けんぽの人は入りません。埼玉県で 2 位ということは、高いというより医療費を使っているということです。

委員：普通ならこれだけ自然があれば、医療費は下がるのではと思います。健康増進もしやすいと思います。

委員：平成 30 年ではときがわ町は 38 万 7242 円でした。それに近づける目標、36 万ということは、私は決して間違いではないと思います。そういう目標を立てて、特定健診とか健康づくりなど町が謳ってくれれば、健康長寿になるのではないかと思います。それから目標はやはり少し上げて、それに沿って努力するというのを町民課には伝えていただければと思います。あまり国保がどうだとか言うと色々な問題が出てきますから。これを目標にして進めていく必要があると思います。

会長：他に何かご質問ありますか。

委員：P93の高齢者への訪問件数の目標が、385となっているのですが、高齢者が増えるというのがあります、訪問件数が倍になるというのはどういうことか伺いたいです。

事務局：基準値となった年がコロナの為に訪問ができなかった年になる。それが平常時に戻れば、数字は高いですが、今よりも頻繁に訪問ができるのではということが担当者の話でした。

会長：すみません、私も初めてで分からないのですが、下から3番目のおすそわけ回数というのは、何の数字ですか。個人に聞くのか、アンケートですか。町の施策ですか。

事務局：コロナで事業は止まってしまっていますが、新たな事業として高齢者の一人住まいの方などを料理教室に招いて、レシピ等で教えて料理したものをその場で消費する。その後、自宅で同じように作っていただいたものをご近所に配っていただくという事業を始めていますが、今はコロナで中止になっています。

会長：料理教室の回数ということですね。

事務局：そうですね。出ていただいた方が家庭に持ち帰って、ご近所におすそわけしていただく回数だと思います。

会長：その他、生涯教育関係などについては大丈夫でしょうか。スポーツ、文化など。

委員：質問良いですか。P94ですが、主な取り組みの中で、高齢者生活支援事業で丸が二つあって、下の方の支援が必要と思われる高齢者にと書いてありますが、支援が必要と思われる高齢者というのは誰が判断するのですか。この文言はもう少し具体的に直した方が良いと思うのですが。

会長：そうですね。誰かが勝手に思ったことになってしまいますよね。

事務局：担当課にこの取り組み内容についても確認しています。考えずに使った文言かもしれませんので、指摘してもう少し分かりやすく表記したいと思いますので、よろしくをお願いします。

会長：また何かありましたら、最後によろしくをお願いします。

事務局：それでは最後の基本政策5でございます。こちらにつきましては、基本施策11、12の二つ。それぞれ施策が一つずつという表記になっております。P107から最終ページまでとなっております。こちらにつきましても今まで同様、ご意見、ご指摘いただければと思います。よろしくをお願いします。

会長：それでは皆さんからご質問等、よろしくをお願いします。

委員：P109の指標の中で、町民と行政が共に協力して町づくりを進める満足度とありますが、この

満足度というのは何をもちいて満足度と呼ぶのですか。町づくりの中でやはりこの人たちが豊かな生活をして、生業が成立する、そういうことを踏まえて、満足度が出てくると思いますので、この満足度の点が疑問に感じます。

事務局：こちらの指標につきましては、住民アンケートを取った結果を基に反映しています。アンケートで町民と行政が共に協力して町づくりを進めるという点に満足していますか、という質問に対する回答のパーセンテージです。この住民参加の推進という協働の部分ですが、今までの目標や指標というのが、パブリックコメントの意見数、区長要望の件数、町長への手紙の受付件数などが掲げられていたのですが、前期計画のそれぞれの件数が、基本的には多くなれば良い指標になっておりました。ただ果たしてそれが目標、指標として相応しいかということを担当課で考えた結果、増えれば良い訳では無いという考えを持ちました。今回はこのような指標になりましたが、非常に抽象的な指標になっていますし、結果の確認が毎年できるものではないので、この辺のところについては、もう一度担当課と協議をして、分かりやすい指標になれば良いかなと考えているところです。

委員：アンケートに満足していますかと聞いているのですよね。ということは、1つはときがわ町の住民生活が豊かになり、生業が発展するというのが基本だと思います。その中では交通の利便性を含め、全体を見ないと満足度はそんなに評価できない。たくさんあるので、もう一度考えていただくのが必要ではないかなと思います。

会長：要するに、アンケートの質問が、町民と行政が共に協力して町づくりを進めていると思いますか。と聞いているのですよね。満足か、不満足かを選ぶ質問ですよね。

コンサル：質問の内容自体は、前期基本計画の施策ごとに各分野において、この施策について満足していますかと聞いています。そのうちの今回は施策の12番目です。指標の設定をした理由としては、先ほどおっしゃっていただいたように、指標として相応しいかを判断した時に、前期計画から継続して設定したのもあれば、後期計画では外したのもございます。その中で新しく設定する指標として、アンケート結果から諮るのはどうかというところで、入れた経緯があったかと思います。

会長：私の質問は、この言葉でアンケートを取っているかということです。

コンサル：文言自体はそうです。

会長：それであれば数字は出ますよね。ただ住民参加の推進が目標だから、満足しているかというのを本当は問うていないのですよね。参加者を増やすというのが本当の目標で、参加者が増えているか、増えていないのかを見るのが本当は正しいですよね。従来のご意見をいただいたというのは、それはそれで良いですが、町のイベントに参加してくれる住民の数とかでもなり得ると思います。

事務局：総合振興計画を今後進めていく中で、各課に指示を出しているのは、やはり毎年どのくらい目標が達成できているかを検証できないと、それを本当にやっているかが正しいのか判断できないと話をしております。そのためにも目標指標のところは、ある程度毎年検証ができる数値設定にしてほしいと話をしております。それについては、各課で検討していただいています。違う目標が出てくるかもしれませんが、それに対応したいと思います。

委員：その言葉を待っておりました。5年後ということではなくて、1年1年の事を精査していくことが一番大事だと思います。検証は誰がやるのですか。

事務局：後期基本計画につきましては、最初にお話がありましたように、総合戦略を兼ね備えた計画になっておりました。総合戦略については毎年検証をしていくことで進めているのですが、皆さんが委員なので、検証は皆さんにもやっていただくことで考えております。

委員：達成できなかったときに、原因等も考えていかなければならないと思います。

委員：PDCAの手法を各課に投入すれば、答えは出てくると思います。

委員：質問があるのですが、P107の現状課題のところ、「行政サービスを積極的に見直して縮小」と書いてあるのですが、住民負担を減らしていくというのは、矛盾していませんか。行政サービスというのは、住民に対するサービスですよね。それを縮小するという事は住民負担が増えるということはないのでしょうか。

事務局：今お話があったのは、P107の中段、現状課題というところの「アンケート結果を見ると」という部分かと思います。どうしても住民サービスを充実させるとなると、そのサービスを受ける方の利用者負担というのが増えていかざるを得ないと思います。税金だけで全て賄うのであれば、そのサービスを受ける方以外も負担が増えるということになります。そのサービスを受ける方は受けている分、ある一定の負担はしていただくという考え方があります。サービスを充実させるとそこが増えてしまうため、どちらが良いですかというアンケートを取ったら、結果としては住民の方はできればサービスが少し悪くなったとしても、住民負担を減らしてほしいという意見が多かったということです。

委員：サービスを受ける人は良いけれど、サービスを受ける必要がない人にとっては、税としてかなり負担になるということですね。分かりました。

会長：ありがとうございました。他にございますか。短いですが、非常に重要なところかと思います。

委員：税の徴収率は県で2番目に高い数値ですが、現場も含めて立派な数字だと思っています。文章としては税の徴収率を高めますとあって、目標も同じです。現在の99.4%はかなり評価できる数字だと思っています。100%を目標にしなければならないというのは理屈としては分かりませんが、どうなのでしょう。

会 長：100%にした方が良いという意見でしょうか。

委 員：どうしたら良いか、皆さんへの投げかけです。99.4%は立派な数値だと思っています。

委 員：100%にしない方が良いです。

会 長：改めて全体で何かありますでしょうか？

委 員：P46の基本政策の1～4について。ここの数字と本文の基本政策1～4の表現が違うので、お話しておいた方が良いと思います。それと無理なのかもしれませんが、もし力を入れた書き方ができるのであれば、基本的な問題は人口問題に起因していると思います。それを解決するにはどうしても20代、30代の人がときがわ町に住みたいような施策、政策を打っていかねばならない。そこを各1～5の大きな政策の中で少しでも打ち出せたら、ときがわ町はこれだけ20代、30代のことを重要視しているとアピールできるのではと感じました。

会 長：Howのところにも関係するお話かと思いますが、皆さまいかがでしょうか？

委 員：しつこい話で申し訳ないですが、森林資源の活用について。森林環境税を国で制度を作って、ときがわ町でも活かすべきだと思っています。先進的に活用していないといけないものだと思います。何度も言っていますが、それが触れられていないように思います。先ほどの先生のお話のように、山と川と里、そういうものに計画の中でチャレンジするのも必要かと思っています。森林環境税というのが新しく国で作って、少しずつときがわ町にもお金が入ってきているが、その活用の仕方がなくて、積んでいるだけになっています。

会 長：事務局、何かご意見ありますか。

事務局：森林環境税につきましては、まだ課税はされていません。確か東日本大震災の災害復興の特別税のような形で一人月1000円、地方税が引かれています。令和5年か6年度まではそちらでいきます。それ以降1000円がその後減税されるのではなく継続される状態で、森林環境税に変わっていくということで、その税を財源とした森林環境譲与税というのがときがわ町にもきているわけです。最近では年間700万程度、来年度には少し増えて900万という予算です。今現在は積んでいるだけではなく、毎年少しずつ使っていますので、そこはお間違いないようにお願いします。林業については、やはりときがわ町は7割が山林ということで、スギ、ヒノキの山が多いため、材料としてこれまでも木工産業が盛んに行われてきたということがあります。その財源はしっかりと使って、今後も木工業の活性化に向けて進めていくと担当課でも承知しておりますし、やる気でおりますので、よろしくをお願いします。

委 員：お願いなのですが、P74の主な取り組みの中の、防災対策事業の二つ目について。防災情報の伝達手段として、携帯電話、パソコン、電子メール、SNS、データ放送などの通信技術を活用した

情報発信を行いますと書いてありますが、町内の老人人口が約4割ということで、この中に「防災無線」という言葉も入れていただきたいなと思います。人によってはここに書いてあるものが分からないと思いますので、できたら防災無線という言葉も入れていただきたいと思います。

事務局：ここに書いてある携帯電話、パソコン、電子メール、SNS、データ放送などというのは、比較的新しい情報伝達手段になるかと思います。防災対策につきましては、防災無線が一番の基本になっていますので、防災無線という言葉自体を情報伝達手段に含めるのは何ら問題ないと思いますので、その方向で進めたいと思います。よろしくをお願いします。

会 長：他に何かありますでしょうか。

委 員：町の計画において、若者はどうしても必要ですね。生活を営む権利、生活が基盤になるわけですね。町の計画では第一産業、第二産業、第三産業とありますが、どの産業に注目して計画を進めていくのかを聞きたいです。第一は農業、林業、水産業、第二は工業、建設業、製造業とありますから、そこに重点を置いて、生涯町を出ないで働く場があるという基盤づくりも必要かなと思います。

事務局：1～3次産業のどこにと言うのは難しく、色々な産業に携わっていただきたいというのがあります。実を申しますと、ときがわ町だけで就労を完結できるとは思っておりません。できるのであれば、町外に出て稼いで帰ってきてほしい。ときがわ町としては外貨を獲得するという考え方です。それを町内で消費していただく。町内で就労してほしいという考えはあまりありません。但しその中でも1次、2次、3次を全て網羅して6次産業と良く言いますが、そういったものも駆使しながら起業していただいて、生活の糧を得る術をもっていただきたい。そういうことも支援しておりますし、企業を誘致して、就労の場所を作るということも実際に進めています。それが中々目立って進んでいないというのも事実です。1次、2次、3次どれをとられると難しい。

委 員：心配なのは、荻久保委員がいますが、木工業も含めてときがわの地場産業があります。そういう点でも皆が協力し合って進めていくのが今後の発展に繋がるのではないかと思います。例えば子どもたちのおもちゃを作るのも、今は委託していると思います。それをときがわ町で作らないといけないのではないのでしょうか。そういうのも含めて、産業に力を入れるということを考えていただければと思います。

会 長：今のお話で細かい話になりますが、町民と行政の協働を進めたいというのが最後の5番にある一方で、子どもたちに残ってほしいという思いもある。ときがわ町で既にやられているかお伺いしたいのですが、小・中学生がよく議会に参加したり、例えばこういう会議の場を作ってあげたり、そういうものはやっていますか？

事務局：合併10周年で1回やった事があります。

会 長：積極的な教育というスタンスなのか、町民との協働なのか分かりませんが、そういうこともやっていった方が良いのかなと思いました。案外子どもたちが良い意見をもっていることが多いので。そういう子どもたちが将来町内会の会長やりたいとなれば一番良い。

委 員：今の議長の意見と同じですが、若者の気持ちや意識なりを調査するのに、アンケート以外に何かないでしょうか。もう少し生の声というか。そのためには、おっしゃったように子ども委員会とか、何か別の方法でやると意外と、私たちが考えているより、意外な意見を持っているかもしれないですね。もう少し多角的に、アンケートだけで統計を出して、若者はこういう意識だろうというよりは、そういう点を考えた方が良いのかなとは思いますが。

委 員：自身の会社の事なのですが、残念なことに大学を卒業してから5年くらいいた女性社員が退職してしまいました。十分技術も発達して、良い人材になったなと思ったのですが、良いお相手が見つからなかったということで、女性の適齢期を考えるようになるとうちの職場ではいなく、今年いっぱい福島に行くことになってしまった。結婚を考えるとときがわ町を出ていく判断をされた。やはり若い女性がここに来たくなるような産業を作りたいと思うのですが、女性の自立意識が高いので、結婚しなくても良いという考え方にもなりやすい。その辺は危惧している。自分としてもそういう魅力的な職場にしたいとは思っているのですが。

会 長：おっしゃる通りかと思えます。

委 員：私は IT 産業を誘致するのが一番良いのではと思っている。大きな工場を作るわけではないので、IT 産業は若い人が多いので、町の重点施策として何かそういうようなときがわ町に若い方を呼ぶ手段としてどうかと思う。ここはまだ東京にも通えるし、事務所にも行けるし、こちらでお仕事もできる。IT なら少し離れていてもできる。重点施策としてできるように町長と議員の方とタッグを組んでやっていくのも一つの方法かなと思います。

会 長：貴重なご意見ありがとうございます。ひとまず、本日の議会はここまでということで、よろしいでしょうか。何かあれば事務局にお願いします。本日もう一つ議事がございまして、パブリックコメントについて、事務局よりお願いします。

事務局：パブリックコメントについてでございます。パブリックコメントについての原稿を置いております。現在日時が入っていないのですが、計画策定の周期を考えると1月早々にはパブリックコメントを実施したいと考えております。1月5日～2月4日までを予定したいと考えております。今会議の中でいただいたご意見を反映させた内容で、一旦パブリックコメントを行いたいと考えております。直した原稿を直接お渡しもできますが、ホームページ等で閲覧できるようにもしますので、そちらを一旦確認していただき、またご意見いただければと思います。よろしくお願ひいたします。

会 長：事務局は大変かと思いますが、直していただいてパブリックコメントを実施するというので、皆さまから何かありますでしょうか。そうしましたら、本日の議事は終了とさせていただきます

す。ご審議ありがとうございました。

事務局：ありがとうございました。4番のその他ですが、次回の審議会について。2月4日までパブリックコメントを行う予定でございます。そこからパブリックコメントに対する回答を皆さまにもお示ししたいと思っておりますので、第3回の審議会については、2月14日の週にお願いできればと考えております。事務局としては、14の週のできるだけ早い日に設定したいのですが。時間は同じ時間で考えております。今、会長、副会長からお話の中で、2月16日の水曜日に予定させていただければと思います。

委員：次回も資料等は事前に届きますか。届いたのが月曜日だった。平日は仕事をしているので、できれば土・日の前に共有をいただけたら助かります。

事務局：次回の会議につきましては、パブリックコメントの終了から間もない日程に設定しておりますので、中々難しいですが、できるだけ早く出せるように努力します。他に何かございますでしょうか。よろしいでしょうか。それでは以上で閉会とさせていただきます。閉会のことばを副会長お願いいたします。

副会長：今日のご苦勞様でした。慎重審議をありがとうございました。

(15:50 終了)